



伊豆スワミジ リトリートに参加して

近藤 千夏子

今回、スワミジのお料理を担当させて頂き、本当に感謝しています。

奉仕することの喜びは、何にも代えがたいものでした。

そして、20年以上前のチダナンダジとお会いした時の感動も蘇ってきて、何倍もの喜びにあふれています。

たくさんの気づきという、プラサードを頂きました。

9月中旬、マキ先生から「スワミジの食事は、すべてインド食にしようと思うの」と言われました。それまで、食事のお手伝い係を申し出た私はのんびりしていましたが、その一言で目が覚めました。「私のあやしいインド料理を、スワミジに召し上がっていただくわけにはいかない」と。



届いた祈り

辞退しようかと悩みましたが、こんな機会はめったにないからと気を取り直し、その夜、天に祈りました。「どうか、インド料理を教えてくれる人に会えますように。お願いします。」と。

すると、翌日ヨガの帰り道、向こうから小柄なインド人女性が、歩いてきたのです。

すかさず初対面の彼女に、「インド料理教えて下さい」と話しかけてしまいました。つたない英語で。すると「大丈夫ですよ。」と日本語で答えてくれました。

しっかり祈りは届いたのです。こうして、南インド出身の日本語がわかる素敵な女性と引き合わせてもらうことができました。

そして、翌日から、南インド料理教室が始まったのです。



グルデブの教えを実践なさっているお姿

アイウエルネルでのスワミジのお部屋は、いつ伺っても、すっきりと心地良い空間でした。

以前、チダナンダジが来日された時、お部屋のお掃除をさせていただいた時のことを思い出しました。一步、足を踏み入れたとたん、すべての物がキラキラと微細に輝いているのです。一瞬、目の錯覚かと思いました。サットヴァの性質なのでしょうか？

その時の感動が、蘇ってきて幸せでした。

食事をするときは、幸せに食べる

食事中は、この瞬間を味わって、ゆったりと優雅です。

スワミジは、まずはゆっくりと、すべてのお皿に目を配られます。食べ物から、大地、太陽、植物、作り手のエネルギーなどを、感じ取られている様でした。

そうすれば、召し上がる量は少なくとも、たくさんのエネルギーを取り入れられるのですね。

チダナンダジの食事は、本当に少ない量だったことを覚えています。一緒に来日されたインド人の食事係が作っていました。ダルと、キチュリ(インド風おかゆ)、とても薄味の優しい味でした。私たちは下げられた食事をプラサードとして喜んで頂きました。貴重な体験でした。

キルタンは、無邪気に明るく

リトリートでのキルタンは、素晴らしかったです。みんながひとつになった瞬間でした。

チダナンダジとご一緒に来日されたヴィマーラナンダジ(現在はアシュラムの総長)のことを思い出しました。

車で移動の際、私を優しく手招きし「隣に座りなさい」とおっしゃいました。まるで、優しいお母さんのようでした。車の中で、マントラを唱えたり、キルタンを歌いました。

今、思い出しても、ほっこり温かな気持ちになります。

シャンティヨガクラブのこと

スワミジが、私たちのグループのことを本当に褒めてくださり、誇りに思います。マキ先生リーダーのもと、一緒に、ヨガの道を歩く仲間恵まれて、幸せです。

チダナンダジに「シャンティの者です」と、自己紹介した時のこと。

穏やかなお顔が、満面の笑顔に変わり、大きな手を上でひらひらさせ、「Maki~Maki~Shanti~Shanti~」と喜ばれたお姿が蘇ってきました。

いつも笑顔のヨギーニでいられますように。



OM Shanti

近藤 千夏子